

2024年9月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは10月12日(土)で「タケってどんな植物?」です。ぜひご参加ください。10月1日(火)の8時30分から電話で申込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回下見は10月6日(日)です。

## 9月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 ⇄ 博物館駐車場東側 ⇄ 釣り堀東側
- 観察日時と天気：2024年9月14日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：17名(大人11名、小学生以下6名)
- 市民スタッフ：5名(石原直子、伊東茂子、北村章子、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2名(岩本二郎・村松和行)

## — 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】ハト科：キジバト/タカ科：トビ/カラス科：ハシブトガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/アトリ科：カワラヒワ/家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類】トカゲ科：ヒガシニホントカゲ

【両生類】ヌマガエル科：ヌマガエル

【昆虫】トンボ目：シオカラトンボ、アオモンイトトンボ/バッタ目：オンブバッタ、ウスイロササキリ、オカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、エンマコオロギ、アオマツムシ(声)、カネタタキ(声)/カマキリ目：チョウセンカマキリ/カメムシ目：キマダラカメムシ、ヨコヅナサシガメ、サルスベリフクロカイガラムシ、ツクツクボウシ(声)、ミンミンゼミ(声)/チョウ目：チャミノガ(幼虫)、ヒロヘリアオイラガ(幼虫)、チャドクガ(幼虫)、モンクロシャチホコ(幼虫)、キタテハ、アカボシゴマダラ、ヤマトシジミ、ムラサキツバメ、ナミアゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ/ハエ目：ウシアブ/コウチュウ目：ヒメカメノコテントウ、ナミテントウ/ハチ目：クロオオアリ、クロヤマアリ、アミメアリ、サクラアリ、ムネボソアリ、テラニシシリアゲアリ、トビイロケアリ、コガタスズメバチ

【クモ類】ヒメグモ科：オオヒメグモ/コガネグモ科：オニグモ、ナガコガネグモ/ジョロウグモ科：ジョロウグモ/タナグモ科：コクサグモ/ハエトリグモ科：シラヒゲハエトリ

【植物】木の花 ツツラフジ科：アオツツラフジ/ミソハギ科：サルスベリ/マメ科：ヤマハギ/アオイ科：ムクゲ

草の花 ツユクサ科：ツユクサ/カヤツリグサ科：ヤマイ/イネ科：メヒシバ、オヒシバ、ムラサキエノコロ、エノコログサ/カタバミ科：アカカタバミ、オッタチカタバミ/アカネ科：ヘクソカズラ/クマツヅラ科：クマツヅラ/キク科：ブタナ、ノゲシ

# 2024年9月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「小さなアリに注目！」でした。熱中症対策として8月と同様に、室内での観察時間と野外での探策とを組み合わせ実施しました。最初に室内で趣旨説明と飼育しているクロオオアリの観察を行い、女王アリがどれだけ大きいかを確認しました。その後、野外に出て、土の地面、コンクリートの隙間、樹木の幹の隙間などでアリの巣の観察と採集を行いました。後半は再び館に戻り、室内で虫眼鏡や双眼実態顕微鏡を用いて、採集したアリの種類を調べました。



今月の案内人  
石原 直子さん



①アリジゴク（ウスバカゲロウ幼虫）の巣。



②アミメアリの顕微鏡画像（20倍に拡大）。  
体長2~4 mm



③ジャコウアゲハの幼虫。



④クロオオアリ（胸部の背中側が膨らむのが特徴）。



歩いたルートと観察した生き物



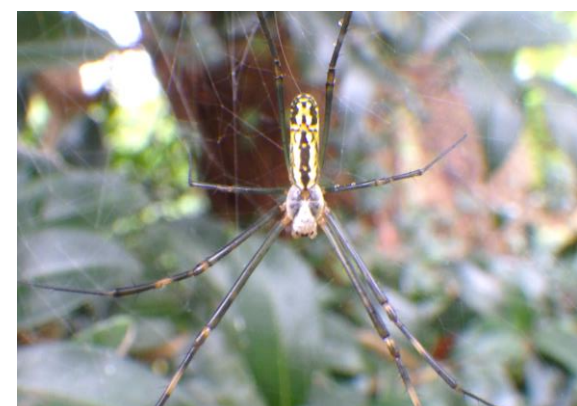
⑤サクラアリの顕微鏡画像（20倍に拡大）。  
体長1~1.5 mm



⑥テラニシシリアゲアリ（腹部端の尖りが特徴）。



⑦クロヤマアリ（胸部の背中側が凹むのが特徴）。



⑧ジョロウグモの♀幼体。

## 今月の鳥 トビ（タカ目タカ科）

日本全国に留鳥として分布し、山地から農耕地や草原、河川や海岸まで多様な環境に生息します。全身が茶色でカラスより大きく、尾が扇形ではなく台形のような独特な形をしていることから、簡単に見分けられます。羽ばたかずに上空をゆっくりと帆翔する姿がよく見られ、英語名は「Black Kite（黒い凧）」といいます。餌は雑食性で、生きている動植物だけでなく、死骸や残飯をよく食べます。秋に「鷹の渡り」で南へと渡るタカ科の鳥は、昆虫や爬虫類・両生類など、夏に多く発生する餌にたよっていますが、トビはカラスと同様に食性の幅が広く、あらゆる季節にさまざまな環境で採餌できます。また、カラスのように人間を利用することもあります。「鳶に油揚げをさらわれる」という慣用句もありますが、野外で弁当を開いたままその場を離れたら、トビが急降下してきて盗られたという話を聞くことがあります。一部地域では観光客の餌やりにより被害が増えたと言われており、皆さんも餌をやらないよう気をつけましょう。

